



学校には子ども達がいなきゃ！

2月27日、我が目を、耳を疑うニュースが突然舞い込んできました。「3月2日から全国一斉休校の要請」、もしかしたら…という気持ちは少しはあったもののまさかこんな急に？というのが正直な感想でした。そのまま実施されれば、明日が本年度最後の登校日？最後の授業？クラス最後の？…明日は冷静に迅速に対応しそして、準備をしなければいけない。何を？どうすれば？今後の影響は？そんなことを考え始めたら、夜もあまり眠れませんでした。

次の日、大野城市の方針が決まり、私は先生方にそのことを伝えました。「まずは今日できることを精一杯しましょう！」先生方もバタバタと動かれ準備をされました。たくさんの荷物を持ち帰る子ども達の中には、突然のクラス最終日となり泣いている子もいました。なんだかどの子も寂しそうで…もちろん先生方も寂しくそして、これからどうなるんだろうかという不安な気持ちにもなりました。

3月2日、出勤した私は、心にぽっかりと穴が開いたような感じでした。朝から子ども達の元気な声が響かない学校が、こんなにもつまらないものだとは思いませんでした。なんだか力が湧いてこないのです。やはり私たち教師は、子ども達がいないとダメなんだと心から思いました。子ども達に様々なことを「教える」ということも当然の仕事なのですが、その一方で、毎日子ども達から活力や勇気ももらい、子ども達と共に成長していくのが教師であるとも思います。先週、全学年の家庭訪問が終了し、今日は3年生の公立高校受験者の登校日でした。久しぶりに学校に来て教室で担任の先生の話聞く子ども達は、とてもうれしそうな笑顔でした。話をされている先生方も生き生きとした表情で子ども達を温かく見守っていらっしゃいました。私自身も子ども達を見ることができただけで、嬉しくて幸せな気持ちになりました。明日からの公立入試、全員が力を出し切ってほしい…そう願うばかりです。そして、今週13日の卒業証書授与式で元気に子ども達と会いたいと心から思っています。

話は変わりますが、3月11日は、東日本大震災から9年を迎えることとなります。今年は新型コロナウイルスの影響で、政府主催の東日本大震災九周年追悼式が中止となりました。しかし、私たちは決して忘れてはいけません。9年前のあの日、中学校では卒業証書授与式が行われました。そして、素敵な式を終えほっとしているところに、信じられない映像が飛び込んできました。現実を突きつけられる毎日に、胸が苦しくなりました。2019年12月現在、死者は19,638人(災害関連死を含む)、行方不明者2,529人、避難者48,633人…福島第一原発問題も2050年頃まではかかると言われています。決して終わっていないのです。去年の学校便りでも言わせていただきましたが、3月11日を迎えるにあたり、「命」の尊さを今一度考え、「命」あることの素晴らしさ、そして私たちは多くの人々のお陰で、多くの物のお陰で「生かされている」ことを忘れてはいけないと思うのです。NHKニュースの被災者アンケートの中から紹介します。

◆岩手県陸前高田市の70代の女性

「災害時、5歳の孫2人と9歳の孫を助けてあげられなかった事が、時間が過ぎて余計に、成長させられなかった事にとっても苦しく立ち直れないでいます。成長する事をたちきってしまった事に孫たちにどのように伝えたらよいのかなといつもおわびするしかない私に腹立たしく、いつも悲しくなっています」

◆岩手県宮古市の70代の男性

「津波も原発も被害の実情は、その現場にいて体験しないとわからない、実感できないことが大きい。直接的な被害をうけた方と全く受けない方との溝は大きく、この差を埋めるにはまだまだ時間がかかる。わが事として理解をしてもらうためにベストな方法はなにか。真面目に考えてきたが答えは見つからない」

◆宮城県多賀城市の60代の女性

「もう9年！まだ9年！心の奥にある不安と不安定が事あるごとに顔を出す。死ぬまでこの気持ちはきえないかもとさらに不安。この気持ちを伝えても相手に伝わっていないのが分かる。防災の備えに期待します」

◆震災当時福島県浪江町に住んでいた50代の女性

「もう9年前の生活には戻れない。震災の被災者であることを忘れない時もなくしたい時もある。でも一生被災者だと思う」

上記からもわかるように震災は決して終わっていないのです。今もなお、苦しんでいる方がたくさんいらっしゃることを私たちは忘れてはいけません。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響がいたるところに出ています。しかし、私たち人間は乗り越えなければなりません。知恵を出し合い、理解し合い、協力して立ち向かわなければなりません。私たちならできます。震災のときも世界中からボランティアに駆けつけ、人々は助け合いここまできたのです。今回も、一人一人がみんなの問題と考え乗り越えていかなければなりません。それと同時に、それでも私たちは「生きているということ」を幸せに感じ、「今」を精一杯に生きること、「今」できることに全力で取り組むことこそ大切なのではないのでしょうか？

3月11日を迎えるにあたり、大人だけでなく子ども達にも、人として、世界の中の日本人として、何が大切なのか、何ができるのかを考えてほしいと思います。ご家族でもぜひ、話題にしていたいただければと思います。

3月13日、御陵中学校を巣立っていく卒業生85名が、それぞれの道でしっかりと努力を力を蓄え、将来社会で、世界で活躍してくれること願いつつ、その日を迎えたいと思います。

■生徒の皆さんへ

皆さん、元気に過ごしていますか？学校の授業もなく、部活動もなく時間の使い方が難しいだろうと思います。しかし、その時間を自分の「有意義な時間」となるように目標をもって生活してください。次のステップへの準備となるように…

そして、明日から公立高校入試の3年生の皆さんは、今日は早く寝て万全の体調で臨んでください。とにかく、リラックスして全てを出し尽くすのみです！応援しています！！

最後に…3年生の皆さん、13日の「卒業証書授与式」に元気に出席してください。皆さんとまた13日に会えることを楽しみにしています。